

# ミステリ読書案内

2023. 2. 20 発行元

第449号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 歴史・時代ミステリその10

第437号に続いて「歴史・時代ミステリ」の第10弾。10回目になったので、一応一区切りか。また、取り上げたい作品が揃ったなら再開することにしよう。未紹介の本はたくさんあるはずと思っている。

### 歴史・時代小説のテーマ

歴史・時代ミステリはまったく何も無いところからはスタートできない。何かしらの事実や史料があって、それがある程度世に知れ渡っているからこそ、その上に想像を付け加えていくことが可能になる。古い時代は化石や石器や土器、遺跡などが手掛かりになる。

文字で書かれていれば情報量は格段に上がる。古事記や日本書紀を土台にした作品はそれなりに書かれている。ただどうしても科学的とは言えない部分が多く残ってしまう。古い時代の物語は想像で補う量

が多くなる。当時の人達の考えていることが現代人とは大きく異なっているのは当然の事だから。

今回取り上げた作品は比較的古い時代を題材にしたもの。戦国時代や江戸時代のミステリとはかなり雰囲気が違う。『源氏物語』を私は全部読んでいるわけではないので、よく理解しないで書いている部分もあるかもしれない。

歴史の学び直しも時々はあるのだが、ミステリを読むことに多くの時間を取っているのも、基礎知識を上げるのは難しい。人物・出来事中心ではなく、歴史を作り上げている土台の部分の理解を高めたい。

### 邦光史郎「夜と昼の神話」

1972年光文社カッパノベルス。その後集英社文庫に収められた時は『幻の出雲神話殺人事件』の題になった。50年前には黒岩重吾や邦光史郎も歴史ミステリを書いていたなあと思って探し出したのが本書。出版社の編集を担当している佐久一英が主人公。出雲を訪れその地の恋人に会いに行ったところ姿が見えず、やがて溺死体で発見されることから始まる。事件そのものよりも、古代の日本人はどこからやってきたのかとか、邪馬台国の問題、古事記・日本書紀の記述の問題、出雲伝説の問題などの解説にかなりの分量を割いている。50年前の分析だが、重要ポイントはしっかり押さえられている。佐久の友人で歴史読物などのライターをしている神原東洋が探偵役に登場。

### 森谷明子「千年の黙しじま 異本源氏物語」

2003年東京創元社。鮎川

哲也賞受賞作品。紫式部と『源氏物語』を真正面から取り上げた作品。丁寧に細かなところまで気を配って書かれたことがよく伝わってくる。ただ、最近世の中で主流の警察小説やアクション系を読んでいる状態から本書を読み始めると、そのゆっくりした筆運びにテンポの合わなさを感じる人もいるかもしれない。

物語は、後に紫式部と呼ばれるようになる藤原為時の娘・香子に仕えている12歳の少女・「あてき」の目を通して始まる。前半は、時の中宮・定子に飼われていた猫が行方不明になる『上にさぶらふ御猫』の話。『源氏物語』が書き始められ、左大臣・藤原道長の娘・彰子に献上される頃の出来事。「猫の行方」なので、やや冗長に感じる部分がある。後半の『かかやく日の宮』は、現存しない『源氏物語』の帖の話で、こちらがメイン。書き写しでしか広がっていかない当時の本の事情があり、途中で帖が消え失せても、「消えたという事実」は読者にはまったく伝わらない。読んだ人からの手紙で、紫式部は二巻目の帖がどこかの段階で無くなっていることに気付く。その行方探しなのだが…。最後の場面はなかなかの緊張感である。紫式部らしい結末。

### 高田崇史「QED 式の密室」

2002年講談社ノベルス。当時、この講談社

ノベルスでは創刊20周年を記念して『密室本』の企画を進めていた。「密室」トリックが入っていて、なおかつ解答編を「袋綴じ」にした形式のシリーズである。本書もその中の一冊。ただ、表紙の内側全部が赤い紙の袋綴じになっていたもの。高田崇史のミステリは、記録に残されている歴史の中の謎を解くというよりは、歴史に登場する題材を使って新たに物語を作り上げる形式を得意としている。本書も舞台は現代。

大学で一緒になった弓削和哉が話す過去の出来事を桑原崇・小松崎良平・棚橋奈々が聞く場面から始まる。昭和31年に和哉の祖父で陰陽師の末裔を名乗る弓削清隆が密室の中で亡くなった事件。自殺なのか他殺なのか、はたまた「式神」という見えない力がはたらいたのか？という話になる。建物の二階の見取り図が示されているのはいかにも「密室本」らしい。ここから桑原崇による長い歴史および伝説講義がスタートする。菅原道真、藤原氏の政権、安倍晴明、陰陽道、鬼の伝説、式神とは何か…と延々と続いていく。歴史に興味のある人にとっては面白い展開になっていく。特に「鬼」についての考察は作者の独壇場と言える。